

東京都健康推進プラン21（第二次）
推進会議
平成27年度第2回
地域における健康づくり部会

平成28年3月22日
東京都福祉保健局保健政策部

(午後5時59分 開会)

○**宮地部会長** 時間よりも若干早いですけれども、全員の委員の先生方にお集まりいただきましたので、始めさせていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから「東京都健康推進プラン21（第二次）推進会議平成27年度第2回地域における健康づくり部会」を開催いたします。

最初に、事務局から出席状況と資料の説明をお願いいたします。

○**山下健康推進課長** 保健政策部健康推進課長の山下でございます。

本部会の委員の皆様でございますが、本日の資料の次第の後に資料1委員名簿がございますが、皆様全員御出席ということでございます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。委員名簿の資料1に続きまして、資料2が「東京都健康推進プラン21（第二次）推進会議設置要綱」でございます。

資料3としまして、「東京都健康推進プラン21（第二次）推進会議名簿・部会名簿」でございます。

資料4としまして、「地域における健康づくり部会の進め方について」の資料でございます。

その後、資料5-1「地元があなたを待っている」という表題がついているパンフレットでございます。

資料5-2が、パンフレット「地元があなたを待っている」配布状況の資料でございます。

資料5-3としまして、パンフレットから紹介しておりますホームページの情報でございます。

資料6でございますが、こちらのほうは本日、参考資料として机上配布7にございます、地域のつながりを通じた健康づくり事業の事例集のホームページ上の掲載ページの御案内でございます。

その後、資料7-1としまして、「ちょっと実行、ずっと健康。」のウォーキングマップのひな形、資料7-2がこのひな形の活用と平成28年度の方向性について。

資料7-3はホチキスどめ3枚になってございますが、ポータルサイトのイメージ案ということで、本日は回収資料となっておりますので、御了解ください。

その後、資料7-4がウォーキングマップのひな形に沿っておつくりいただきました荒川区のウォーキングマップでございます。

資料8でございますが、「東京都福祉保健局の報告書（平成26年12月）の私的解析」という表題になっておりますけれども、本日、机上配布6であります「平成25年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」の結果の解析を、第1回の地域の健康づくり部会のほうに御参加いただきました大崎様のほうで新たに解析いただいたものの資料ということでございます。こちらも回収資料でございます。

資料9が、「平成28年度健康づくり事業推進指導者育成事業計画（案）」で、両面刷りになってございます。

資料10が、「会社の元気は従業員の健康から!」、これは職域における健康づくり部会のほうで作成しましたリーフレットでございます。

資料11でございますが、こちらは既に終わったものでございますが、昨年10月20日に開催いたしました「業種から考える健康経営」の講演会の案内チラシでございます。

以上、資料11までの他に机上配布としまして、机上配布1「東京都健康推進プラン21（第二次）」の冊子で、机上配布2その概要版で、机上配布3「東京都がん対策推進計画（第一次改定）」、机上配布4「東京都保健医療計画の概要」、机上配布5「健康のためのヒント集」、机上配布6「平成25年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」の報告書、机上配布7「地域のつながりを通じた健康づくり事業事例集」でございます。

机上配布資料につきましては、会議の終了後、そのまま机上に置いてお帰りいただきますようお願いいたします。

資料の不足がございましたら、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

なお、本日の部会でございますが、資料2の設置要綱にありますとおり、この会議は原則として公開ということでございます。本日の議論につきましても速記録を委員の皆様にご後ほど御確認いただいた後、ホームページで公開予定としておりますので、御了承のほどよろしくをお願いいたします。

私からの説明は以上でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

それでは、改めまして、会に先立ちまして一言私から御挨拶をさせていただきたいと思っております。

年度末の本当に御多忙の中、御参集いただきましてありがとうございます。私の記憶する範囲では、委員の先生方に全員そろっていただいてこの会が開けるのは初めてかもしれません。今日の議題は、今年度の活動の御報告に始まりまして、来年度に向けての展望ということで、非常に盛りだくさんの議題を御用意いただいております。ぜひとも忌憚のない御意見と、それから遠慮なく御質問をいただきまして、私どもの取組に対して力になる御意見をいただければ幸いに存じます。

2時間という時間を用意しておりますけれども、円滑に議事を進行いたしまして、時間内に終われるように努力いたしたいと思っておりますので、何とぞ御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

それでは、余り時間もございませんので、早速議事に入りたいと思っております。

初めに、議事（1）の部会の進め方につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

○山下健康推進課長 資料4をご覧ください。「地域における健康づくり部会の進め方に

ついて」でございます。今回の検討事項についての案を示させていただいております。

まず、1としまして、今年度の取組につきまして御報告と情報共有をさせていただきたいと思っております。具体的には、地域のつながり醸成のためのパンフレット「地元があなたを待っている」、並びに「地域のつながりを通じた健康づくり事業事例集」についてでございます。

次に、ウォーキングマップ（ひな形）の活用状況等についてでございます。ひな形の作成趣旨と、実際のひな型を前回の地域部会でも御紹介させていただいたところでございますが、既に今年度、複数の自治体におきまして独自のウォーキングマップを作成いただいておりますので、完成しておりますマップをご覧いただきたいと思います。

あわせて、来年度、当課では身体活動量増加に向けまして、ウォーキングマップのポータルサイトを作成する予定としております。自治体でのマップ作成の促進と、都民の方々などが活用しやすいポータルサイト作成に向けまして御意見を頂戴したいと考えております。

また、資料はおつけしておりませんが、このウォーキングマップにつきましては職域部会でも情報共有させていただいております。例えば職場において昼休みにウォーキングをしていただいたり、社内ウォーキング大会などで職場における健康づくりにも活用できるのではないかと御意見をいただいているところでございます。御紹介させていただくとともに、地域・職域連携の視点からも御議論をいただければと思います。

次に、「平成25年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」の活用に関してでございます。前回の部会でも、小平市の地域健康づくり推進員の大崎様に分析について御紹介をいただいたところでございますが、その後、新たによりわかりやすい見せ方の分析結果というものをお送りいただいておりますので、御紹介させていただきます。地域での活用に向け、大崎様の分析をもとに御意見をいただければと思います。

その他といたしまして、都が健康づくり事業担当者向けに実施しております健康づくり事業推進指導者育成研修の平成28年度の計画と、職域部会で作成いたしました企業の経営者向けのリーフレットの紹介をさせていただきたいと思っております。

本日の部会の進め方につきましては、以上でございます。

○宮地部会長 事務局から、本日の部会の進め方についての御説明をいただきました。何か進め方について御質問、御異議がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、議事に従いまして進めさせていただきます。

議題（2）、平成27年度取組について、事務局より御説明をお願いいたします。

○山下健康推進課長 第1回の部会の際にいただきました御意見をもとに、このパンフレットを修正いたしまして、でき上がったものが本日の資料5-1におつけしておりますのでございます。

この発行は昨年10月に行っておりまして、既に配布を行っているところでございますが、作成に当たりましてはさまざまな御意見を頂戴し、誠にありがとうございました。

配布先の状況でございますが、資料5-2にまとめているところでございます。作成時の配布先が上段のほうにございます。各区市町村の保健衛生部門、産業振興部門、国民健康保険部門、それぞれの各主管課、都内の労働基準監督署、ハローワーク等、社会福祉協議会、シルバー人材センター、職域関係の各団体、保険者の関係団体等になります。

この他、当課で実施している講演会等で配布を行いました他、後ほど詳細を説明させていただきますが、ホームページに掲載しましたところ、健康保険組合から加入の企業に配布したい、あるいは区市町村の地域振興課、生涯学習課などから追加配布の希望の御連絡をいただきまして、対応させていただいているところでございます。

また、民生委員の方からも直接御連絡をいただきまして、ホームページをご覧になって、ぜひ活用をしたいという御希望がありまして、都庁までおいでいただいた方が4名ほどいらっしゃいました。民生委員の方の御希望はお1人当たりでは数部といったところでございますが、御自身が情報を得て取りに来てくださったというところで、このパンフレットのニーズを改めて感じているところでございます。こうしたこともございますので、局内の地域福祉の所管課とも調整いたしまして、民生委員の方に情報提供をする機会に合わせて、このパンフレットを紹介する機会をいただけるよう、担当レベルの打ち合わせをする予定としているところでございます。

このパンフレットでございますが、ホームページに掲載しているところでございます。こちらは資料5-3をご覧ください。掲載ページの状況をお示ししております。各区市町村別に問い合わせ先のリンクを掲載いたしまして、そこをクリックいたしますと、資料5-3では千代田区をクリックした場合が右下にございますが、その自治体の健康づくりや生涯学習の担当部署の他、各自治体のシルバー人材センター、社会福祉協議会へのリンクを表示するようにしているところでございます。

パンフレットにつきましては以上でございます。

続きまして、資料6でございます。「地域のつながりを通じた健康づくり事業事例集」、実際の事例集自体は机上配布の7でございます。事例集自体は前回報告させていただいたところでございますが、ホームページにも早目に掲載したほうがよいという御意見をいただいたところでございますので、資料6にお示ししましたように、「とうきょう健康ステーション」のホームページに掲載しているところでございます。こちらのほうもあわせてご覧いただければと存じます。

説明は以上でございます。

○宮地部会長 事務局から、平成27年度の取組について説明をいただきました。御質問や御意見等がありましたらお願いいたします。

倉橋委員、お願いします。

○倉橋委員 「地元があなたを待っている」のパンフレットは非常に読みやすくてきているなと思いました。早速、インターネットの検索の二次元コードをスマホで読み取って見たら、割とさくさくとこの画面、千代田区に行きましたと表示されている画面に行けまし

たし、他のところ、私の住んでいる地域もやってみたらすつと出て、割にうまく案内ができていたなと思いました。

あとは、そこから先にうまくつないでいくコンテンツのほうを充実していくということが次の課題かなと思います。それも、今回いろいろとひな形を示しているのでものでリードしていけば、各区市町村とも次第に充実していくことが大変期待されますので、非常にいい方向だなと思いました。

1つだけ質問があるのですけれども、表紙に書いてある点々の模様は何ですか。

○山下健康推進課長 表紙にありますところですが、そのすぐ右側のほうに切り欠きがございます。この切り欠きは、視覚障害者の方が活用いただける音声コードがこの近くにございますよという御案内です。ですので、二次元コードに比べるとかなり細かいコードになっております。これに入るのは何文字でしたか。

○事務局 サイズが二、三種類ございまして、600字以内のものと約800字のものと、1,000～1,200字程度のものがあります。これは恐らくそんなに字数は多くないと思います。

○山下健康推進課長 ですので、この大きさですが、数百字単位で情報を入れることができますので、視覚障害者の方にもこのパンフレットがどういうものかというのを、これは簡単な機械でご紹介できます。

○事務局 はい。読み取りの機械がございます。

○倉橋委員 音声でそのデータが再生されるということですか。

○山下健康推進課長 そうです。

○倉橋委員 工夫されていると思います。

○宮地部会長 私も知らなかったです。

○山下健康推進課長 スマートフォンにこのアプリが入っているものがあるのです。

○宮地部会長 ダウンロードすれば、これが音声で聞ける。

○山下健康推進課長 そうです。

○倉橋委員 知っている人は知っている。

○山下健康推進課長 そうですね。ここの切り欠きがポイントになっていますので、このすぐそばにつくる約束になっておりますので、都でつくる配布物でも、都民一般の方を対象としているものは原則として音声コードを入れるように今はしているところでございます。

こちらの机上配布5にも、表紙のほうに切り欠きがございますが、ここが音声コードになっております。

○近藤委員 これは説明の文章が書いてあります。

○宮地部会長 そうですね。音声コードですと書いてある。

○山下健康推進課長 本日の資料10のほうもそうです。こちらの裏面のほうですが、音声コードがついております。やはり切り欠きのすぐ隣です。

○宮地部会長 ありがとうございます。

他にどなたか御意見とかありますでしょうか。では、近藤委員、お願いします。

○近藤委員 好評を博しているということでうれしく思いました。せっかくなので、何かもっとウェブ上とか、どんどん宣伝したらいいなと思います。ターゲットとしては、今はお勤めになっていて、これから退職されるような方ですね。そういうところで、例えば企業の保健セクターみたいなのところとか、もし可能であれば、こういうのにどんどんリンクを張ってもらおうとか。あと都のフェイスブックサイトとか、そういうのもあるのですか。ああいうのも結局お金がかからないし、結構この年代の方も使われていると思うので、そういうところでローコストに宣伝できるのがメディアの強みだと思うので、やっていけたらいいなと思いました。

○宮地部会長 ありがとうございます。

50代後半というのはまだソーシャルネットワークを活用できる世代の方々なので、ぜひそういうチャンネルもうまく御活用いただければなと思いますね。

○近藤委員 ツイッターとか。

○山下健康推進課長 ぜひ活用したいと思います。

○近藤委員 私も宣伝しようと思います。

○宮地部会長 ぜひお願いします。今、この資料5-2を見ていただくと、パンフレット「地元があなたを待っている」配布状況ということで、20の配布先に対して14が職域絡みですね。ですから、職域の組織は結構ホームページ、あるいはフェイスブックページなどを持っていますので、うまくリンクをしてもらえると、結構広がってくのかなと思います。貴重な御意見、ありがとうございました。

地域の先生方から他に何か御意見はありますでしょうか。今、これを見ると、20のうちの6つしか地域からの引き合いがないということで、例えば一つ興味があったのは、「退職者説明会等での配布が可能ではないか、との自治体の御意見」というのが資料5-2の最後にありますよね。事務局、これは具体的にどういった事例でしたか。

○山下健康推進課長 こちらの自治体でございますが、新宿区のほうから、3月の月末にあります退職者向けのいろいろ手続をする場面でお配りしていただけるということで、ちょうど定年退職等で、あるいは早期の方もいらっしゃいますけれども、そういった方々に配っていただけるということで、100部お届けしたところでございます。

○宮地部会長 それこそ、今まさに退職しますよという方にターゲットを絞って配るという取組をしてくださっているということですね。

どうでしょうか、自治体からの委員の皆様。例えば、私たちの自治体も含めて、地域であればこういう配り方ができるのではないかなみたいな御意見をいただければ、そこに積極的に事務局から働きかけていただくということもできると思います。

何かございますか。では、内野委員、お願いいたします。

○内野委員 練馬区の内野と申します。よろしく申し上げます。

とてもすてきなパンフレットで、前回会議でのいろいろな意見が反映されてよかったなと私も思いました。

練馬区にも、このポータルサイトの御紹介を既にいただいておりまして、私どものほうも職域の方々に、健診なども受けていただく、健康づくりの事業にも参加していただきたいというのが大きな課題となっています。こういった東京都さんがつくられているものも活用させていただきながら、また、他区の状況も、我々も知らなければいけないのですが、なかなかできないという状況もあります。こういったところにも活用させていただきながら、来年度は、練馬区の場合は中小企業が多いものですから、企業に入っていくということを今考えておりますので、参考にさせていただければと思っております。ありがとうございます。

○**宮地部会長** 他にどなたか御意見はございますでしょうか。

私のから事務局に1つ質問をしていいですか。今のところ、この資料を今後何年ぐらいこの形で御活用されていく予定でいらっしゃいますか。大体的見通しで結構です。

○**山下健康推進課長** 同じ形ですとっていくかはまだはっきりと予定が立っているわけではないのですが、少なくとも平成25年度に行いました都民を対象とする調査において、こういったことが非常に大事であるということがはっきり根拠を持ってやっている以上は、それについて一定の成果が上がるまでは何らかの形で取組は続けていきたいと。少なくともホームページに載っているコンテンツはずっと更新しながら活用は可能ですので、こういったターゲットへの働きかけは続けていけるのではないかなと。

配布物については、また今後のいろいろな状況や課題等を見ていきながら、こういった形で作るかということは、また次年度以降、検討していくことになろうかなと思っておりますが、しばらくは行けるところまでは行きたいなということでございます。

○**近藤委員** 追加で。これを見て実際に地元デビューした人の話とか、逆にこんなのはだめだよというような意見とか、そういう事後マーケティングみたいなこともできたらいいのではないかと思います。どんなチャンネルを使ってやった方がいいのか想像できないのですが、例えば取りに来てくれた民生委員さんとか、そういった方を通じて情報収集したり、あとは企業で配られているところもあったのでしょうか、そういったところにコンタクトしてみて、実際に反応はどうですかとか、実際に退職後のことでどんな意識が変わったかというの聞いてもらうようなことをやってみるといいと思います。

○**山下健康推進課長** ありがとうございます。

○**宮地部会長** やはりこの内容を見てみますと、先ほど新宿区の話が出ましたけれども、新宿区の区役所で働いている人は新宿区に住んでいる方も一部いらっしゃるでしょうけれども、例えば市部から通ってこられる方も多分多くいらっしゃいますよね。パンフレット全体のイメージが区部・都心で働いていて、少し離れた市部などに住んでいる。その人たちが都心の仕事を離れるので、今住んでいる地域に戻って活動するというイメージでおおむねつくられているのですよね。でも、東京都の人たちは実際に本当にそういう人ばかり

りなののでしょうかということを考えると、意外と大きなおうちを売り払って都心に2人だけで奥さんと一緒に転居しますというパターンの人も結構多いというようにも聞いています。

なので、実は多様な、老後という言い方はおかしいですね、リタイアした後の過ごし方もあるということ。長野県とか静岡県というように農業を営んでいるような方々とは違った、土地に縛られない移動というのが結構定年を境に起こり得る可能性というのが東京都の中にあるだろうということで、そういうタイプのパターンにも対応できるようになっていると、区部の人たちはむしろその資料が使いやすいと思うので、御検討いただけないのではないかと思います。マイナーチェンジの中で、御検討いただければということでございます。

○山下健康推進課長 ありがとうございます。

○宮地部会長 他に何か先生方からありますでしょうか。

では、また終わりまでに思いつくことがあったり、他の資料との比較で思いつくことがありましたら、またこのパンフレットについても御指導いただきたいと思います。

次の議題(3)、ウォーキングマップ(ひな形)の活用状況等について、事務局から御説明をよろしくお願いいたします。

○山下健康推進課長 それでは、資料7-1から資料7-4までをご覧ください。

まず、資料7-1でございますが、こちらはウォーキングマップのひな形ということで6ツ折になったものでございます。前回の部会の中でも御紹介させていただきましたけれども、こちらのレイアウト自体は変わっておりませんが、内容につきまして文言の修正等、宮地部会長から御指摘をいただいたところを修正を行っております。「ウォーミングアップ」という言葉を「ウォームアップ」、「クーリングダウン」を「クールダウン」等、あと表現を幾つか変えております。また、「万歩計」という言葉を説明の中で使っておりましたが、万歩計というのは固有名詞だそうで、「歩数計やスマートフォンなどで」と変えたり、そういうことを行っております。

基本的にはこのひな形に沿って、マニュアルもおつけしておりますので、さまざまな区市町村で御検討いただいているところでございますが、資料7-2をご覧ください。「ウォーキングマップ(ひな形)の活用と平成28年度の方向性について」でございます。

御案内のように、2020年に向けまして、東京都としましても「大会後のレガシーを見据えて」ということで、昨年12月に作成した計画の中でも、生活習慣病や生活機能の低下の予防のために身体活動量を増やす取組というところを掲げておりまして、1日8,000歩以上の歩行を推奨するなど、日常生活における健康づくりの推進というところ、この取組の推進のため、東京都あるいは区市町村が作成した都内のウォーキングマップを集め、活用しやすいポータルサイトを設置することとしております。

ウォーキングマップの特設サイトでございますけれども、こちらはとうきょう健康ステーションの関連サイトとして平成28年の秋ごろに設置予定でございます。基本的に多言

語対応を予定しております、都民だけではなく、広く他の道府県、あるいは外国からの旅行者の方たちが各区市町村を訪れた際にも手軽に利用できるようにしたいという考え方でございます。

基本的には、こちらの特設サイトではオンラインでスマホやタブレット等で閲覧いただけるようなイメージで考えております。そうしますと、ウォーキングマップのひな形をご覧いただけますと、上下が広げたときに方向が必ずしもそろいませんので、オンラインで閲覧する場合等は配置の変更等が必要になってまいりますし、あと先ほど申し上げましたように、多言語対応という点では一部そういった修正等をさせていただくところがございますので、こういったところについてもおつくりいただくマップについて、そのような取り上げ方をさせていただきたいというところを各区市町村様のほうにお願いしているところでございます。

実際のポータルサイトのイメージは、これはまだ原案の段階でございますが、資料7-3が回収資料という形でございますが、イメージをつけさせていただいております。

コンテンツの内容でございますが、トップ画面には東京都の健康づくり推進キャラクター「ケンコウデスカマン」を登場させ、ウォーキングの効果についての説明を載せます。マップの目的や趣旨等の説明、ウォーキングの方法、その後に区市町村別のマップがございます。

収録のイメージとしては資料7-3②、2枚目をご覧いただければと存じます。こちらのほうに閲覧用のマップと、あと印刷用であるPDF版も収録する予定でございます。また、グーグルマップと連携をとった各区市町村の名称等のポイントングということも考えておまして、そこも参考にできるような事例等を今調べているところでございます。

あと、関連リンクのほうも載せる予定でございます、資料7-3③のほうにはスマートフォンのイメージを載せております。グーグルマップと連動いたしますと、どの区市町村のマップを印刷すればよいかわかるようなリンクになりますので、そういった活用の仕方を考えるところでございます。スマートフォンも基本的にはPC版と同様のイメージでつくったところでございます。

今年度は、資料7-2の下のほうにございますように、特別区4区で作成いただいているところでございます。このうち、本日は荒川区で作成いただいたものを資料7-4という形でつけさせていただいております。タイトル部分に、荒川区のマップでございますけれども、「健康アドバイス付き」と載せていただいております、身体活動にとどまらずさまざまな分野の生活習慣改善のポイントも記載いただいているような、そういう内容のもので作成いただいたものでございます。

資料7-1から資料7-4につきましたの説明は以上でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。事務局からウォーキングマップの活用状況等について御説明をいただきました。今年度は4自治体ということですね。

4自治体は、荒川区とどこでしたか。

○山下健康推進課長 葛飾区、北区、あと港区の4区でございます。

○宮地部会長 区部4区からもう作成をいただいたということですが、来年度は10を超える自治体で作成予定ということでございました。自治体での取組の広がりに向けて、また秋には都のほうでホームページの開設を予定されているということで、サイトの案が御提示されましたので、これをいかに多くの方に利用してもらうのかということと、コンテンツはもっとこうするべきなのではないかといったようなことをぜひ御意見をいただきたいと思います。

せっかくですので、倉橋委員、荒川区の資料がございますので、御意見をいただけると。

○倉橋委員 これは以前から要所要所に、ここでGコース何百メートルというようなタイトルを地面に埋め込むような形で区が開設してきたウォーキングマップなんですね。それに加えて、取捨選択というか、人気のあるコース、あるいはもう少し川沿いを歩くようなルートがあったのですけれども、実は土手の工事が始まったので、今は危険になって歩けなくなったものは外すとか、そういうところを工夫し、逆に右のほうにBコース、あそこら辺は桜がきれいで非常に歩きやすい、ジョギングコース的な非常に人気のあるところを取り入れるなどのような形で、改訂、整理したものです。

特徴としては、トイレなどの表示を充実させるということで、休みどころ、トイレなどを入れようということで入れたのですけれども、先ほどこの会議が始まる前に雑談で話したのですが、予算委員会で質問が出まして、トイレは洋式のほうが高齢者にとってはよいだろうということがありましたので、今後はトイレその他、雨宿り、寒いときの一休み、温まるようなことも含めて、そういう利用者の立場に立った情報を盛り込んで改善していくべきかなということをつくったばかりですけれども、早速、改善点を内部で検討しているところでございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

確かに、トイレのマークがあるのですけれども、小さかったり、ベンチもマークしてあるのですけれども、小さくてわかりにくかったりということで、もう少し表示を大きくしてもいいかもしれないですね。改善点がこうやって早速挙がってきているというのは、先につくったところは損をする、後の人は意見を参考につくっていけるので。倉橋委員から早速出ている意見を記録していただいて、これからつくろうという自治体に情報が行くようにしていただけると、同じ過ちを繰り返さなくて済む。過ちというほどの過ちではないのですけれども、ぜひ生かして頂ければと思いました。

今、4つの案を見ていただいています。みんな区部なのです。市部のものができてなくて、区部と市部では恐らく歩きたいと思わせる仕掛けも違いますし、区部だとどちらかというとな所だったり、お寺だったり、神社だったり、人工的な公園だったりということなのですけれども、市部になると今度は自然のものということになってきて、作り方が随分違ってくると思うのですけれども、そこら辺は何か、御意見が、例えば市部の先生方おありでしたら御意見をいただけるとありがたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

では、三澤委員。

○三澤委員 日の出町なのですけれども、私どもは典型的な田舎の代表ということで、来年度予算化をして1万部つくらせていただく予定でございます。東京都さんの補助も仰ぎながらということが前提になります。

今、観光のマップのほうに幾つか紹介させていただいているコースでありますとか、うちのほうでは緑地保全で購入したちょっと丘陵的な、野鳥の森というネーミングのゾーンがございますので、そこも含めた森林浴コースみたいなものと、あとはやはり我々のほうのところだけでつくると、元気にふだん歩いていらっしゃる人から、おもしろくないとか、いろいろ御批判があるもので、広報か何かを使って、ふだん歩いていらっしゃる自慢のコースを少し募ってみようかなということで、ある程度の御意見を寄せていただけたら、そういうのも盛り込んでいけたらと考えてございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。森林浴コースとか、聞いているだけでも歩きたくなりますし、やはり都心と違った試みだということですね。

○倉橋委員 関連してもう一点。自慢のコースを募ると、恐らく区市境を越えて歩いている方もいらっしゃると思いますが、残念ながらこの資料は荒川区のマップ、荒川区内で完結したコースなのです。これはそういうコースを区が開発してきたからですけれども、現実には隅田川をずっと下っていくとか、同じコースを戻るのはあまりおもしろくないので、疲れたところで電車に乗って帰ってくるというような形で歩く方もたくさんいらっしゃると思うのです。そういう意味では、区市を超えたコースを共同で提案をして、駅から駅というような条件で、連携コース、名前は考えていただきたいのですけれども、協調コースでも何でもいいのですけれども、そういう各区市連携のコースというのを提案するというのもおもしろいかなと思いました。

○宮地部会長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。では、横塚委員、お願いいたします。

○横塚委員 立川市です。

今まではなかったもので、こんなすばらしいのを見ると恥ずかしい。本当に手づくりで、市民の方たち、健康づくり推進員の方たちの手づくりのものを使っておりました。手書きなものですから、なかなか更新をするのが難しかったので、今回、東京都さんが作成のひな形であるとか、あるいはつくり方の情報を提供いただいたのは大変ありがたかったと思っています。

どうしてもつくるグループごとによって統一感がなかったり、表記がばらばらだったりするというのがあるので、今5つつくったものがあるのですけれども、そういう意味では今回のこういう作成のツールを提供いただいたのは非常に有効だと思っております。

平成28年度は3コースつくろうということで、今、健康づくり推進員の市民の方たちに、実際にこういうイメージですということを示して話を持ちかけたら、皆さん大変乗り気になって、ぜひやりたいというようなお話をいただきました。こういうふうに見える形

でイメージできるものを先に提供していただくと、非常にありがたいと思っております。

あとは、先ほど隣接市との連携みたいなこともありましたし、恐らくこれを使ったらいろいろなお取組が各自治体でされるのだと思います。あるいは、いろいろな御苦労であるとか工夫、そういう情報がタイムリーに知れると非常にありがたいと感じております。例えば一般の都民の方がご覧になるこういうサイト以外に、例えば事務担当者用の掲示板みたいなもので情報交換ができるような仕組みみたいなものがあると、実際にこういうことをやって非常に好評だったよとか、ここにいいコースがあるから連携しないかみたいなことができればいいかなという感じを今のお話を伺っていたしました。また、御検討いただければありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

○宮地部会長 ちょっとそれを見せていただいてもよろしいですか。

○横塚委員 本当に手書きで。

○宮地部会長 いやいや、すごくすてきですね。

○倉橋委員 実際に歩いた人の要望が入っているので、きれいはきれいなほうがいいのですが、実際に使いやすいのではないかなと思います。

○宮地部会長 玉川上水のコースなんて、本当に越境しますよね。歩いているとつい、立川市から東大和市へ行っちゃったとか、国立市に行っちゃったとかありますよね。トイレのこともあるし、情報も入っていますし、スターバックスとか、そういうのもありますし、実際に密着していますよね。畑とか、いい感じですよ。ありがとうございます。

今、健康づくり推進員さん、健康増進推進員さん、そういうボランティアの方がこういうものの作成にかかわっていただくというのは、実はすごく大事なのではないかなと思います。既存の観光部局がつくったものを使うというのも手っ取り早くていいと思うのですが、やはり地域の方がこの資料にコミットしたという。できれば、個人名までは出していただかなくてもいいけれども、例えばその推進員の方々に御協力をいただきましたということを表記をしていただけると、すごくいい取組になるのかなと思いました。

マップに関して他に何かありますか。

○内野委員 前回の会議のときに、今検討していますということでお話をさせていただいたのですが、2つ来年度予算化をさせていただきまして、補助の申請もお願いをしていきたいと思っております。

1つが、生活習慣改善の推進ということで、これまでも地域の町会の方とか関係団体の方と保健相談所の管轄ごとで健康づくりなどの事業をやっているのですが、そういった方々の御協力を得て、ウォーキングマップをつくらうということでやっております。地域に密着して、まさに地元の方がわかるようなものにしたいなというところなのですが、結構細かくなってしまうのかなというところもあるのですが、今それを一生懸命やっています。

もう一つは、練馬区は精神障害関係の病院の設置があるものですから、精神障害者の方も多くいらっしゃるのです。そういった地域で、なかなか外に出なくてメタボリックにな

ってしまうような方も多い傾向があります。外に出ていただくという目的で作成します。近隣に福祉作業所などもありますので、そういった関係機関と協力をして、ウォーキング、加えて居場所のマップをつくります。これが2つ目で、補助金をいただきながら、精神障害者の視点に立ったマップ、二つ違った視点ですが、来年度予算化をさせていただいております。

以上です。

○宮地部会長 ありがとうございます。

1つだけコメントしていいですか。今、精神神経障害がある方々のための歩く道というお話がありましたけれども、居場所という話もありました。今、こういう身体活動やスポーツの分野で重要なキーワードとしてインクルーシブという言葉があるのです。日本語に直すのがなかなか難しく、包括的な、抱合的なのとか、みんなのとか、そういう意味ですけれども、こういうウォーキングマップは健康な人のための健康づくりのための道具という一面が確かにあるのですけれども、これからオリンピックもパラリンピックも同時に行われることですし、障害のある方も安心して歩ける的な表示などがあると、より活用の幅が広がって、非常にすばらしい試みだなと思って拝聴しました。ありがとうございます。

近藤委員。

○近藤委員 3つほどコメント。最初の荒川区の予算委員会でそういう話が出たということですがけれども、そうしたらガイドに、例えば高齢の方に配慮して大事な情報のフォントは何以上にしましょうとか、何かそういうのも。

○宮地部会長 ユニバーサルデザインの注意みたいな。

○近藤委員 ちょっとポイントで書いておくといいのかなと思いました。洋式か和式の情報というのはあるのですかね。そこまでできるのかな。

○宮地部会長 でも、和式でなかなかトイレができないという方が多いですよ。

○近藤委員 そこまで求めてしまうと、結構ハードルが高くなってしまいうような気も。

○宮地部会長 そうですね。あればなおよいということだと思います。

○近藤委員 少なくとも字の大きさとかは一言書いておくといいのかなと思ったのが1つ。

あと、実際に配ってどうだったのかという評価をぜひしたいなと感じて、例えば各区でやっている健康調査とかのときに、これを使いましたかとか、あるいはこのマップの中に御意見をくださいとか、もっとうちのほうがいいのではないかみたいな、情報をお寄せくださいみたいな部分をちょっと入れてもらうということもしたいなと感じました。

もう一つは、これは本当に思いつきで申し訳ないのですけれども、先ほどのウォーキングを頑張っていらっしゃる方の自慢のコースという話ですね。それをうまく活用できないのかなというのはすごく感じました。というのも、これは前のときも伝えたのですけれども、私なんかは町田市 of 端の端に住んでいて、町田市がウォーキングマップをつくったと

しても、私の家の周りのマップができるとは到底思えないのです。そうすると、それが無い地域が出てくるので、やはりトップダウン的だと限界はあるなと思うのです。私の家の周りにも結構元気に歩いている方はいっぱいいらして、ああいう方も自分の御自慢コースを誰かに伝えたいのではないかなと思うのですね。そういう情報をうまく集められる、交流したりする仕組みがつかれるとおもしろいなと思ったのです。

○宮地部会長 何かどンドンそういうのが自動的に蓄積していくような仕組みですよ。

○近藤委員 そうです。私の自慢。そうすると、例えば検索すると、私の家の周りのコースも出てきたりと。あそこを歩いているとこの人に会えるのかもとか、交流も生まれて、つながりも生まれたり。

○宮地部会長 そうですね。今のテクノロジーなら十分できると思いますね。

○近藤委員 できますよね。ちょっとインターネットのスキルがないと難しいのかもしれないのですけれども、そういうのをうまく投稿できるようなサイトとか。ジョギングのは結構あるのです。

○宮地部会長 そうですね。アクティブトラッカーみたいなものを使って。

○近藤委員 あれは走ったのを誰かに伝えることでモチベーションにしたりしていますし。

○宮地部会長 ソーシャルネットワークと連携していますね。

○近藤委員 それをウォーキングにも持ってこられないかなというのを、これは本当に思いつきなのですけれども、次の活動に生かせるものとしてあるし、東京都という大きい枠でやる活動というのはそういうフレームを提供してあげるというのも大事な役目なのかなと感じました。

以上です。

○宮地部会長 ありがとうございます。ぜひ事務局、来年度のサイトをつくるころにどこまで盛り込めるかというところもあると思いますけれども、御検討ください。

他にどなたかございませんか。渡部委員、何かウォーキングマップでも何でも。

○渡部委員 今回、ネットを使ってきちんと公開していくということで、PDF、紙がそのまま見られるのではなくて、グーグルマップやグーグルアースなんかもつながるのかな、そういったことで若い人もアクセスしやすいようなことがうまくできるかもれないし、それから今、双方向というお話もありましたけれども、こういうコースはいいねということで、双方向でうまく使えるようになっていけばいいかなと思いました。

マップをつくるだけではなくて、よく地元なんかでも七福神めぐりだとか、コミセンを回ってスタンプラリーというので、プラスアルファで呼び込むというのがあるので、マップと合わせて地元でも健康づくり以外の分野との連携でそういったものが生まれるといいと思いますね。

○宮地部会長 ありがとうございます。やはり地元にしかなれないというか、都がこれをつくりましたというのではつukれないものですよ。もうちょっと言うと、地域とのコ

ミットメントがないとできませんから、ぜひそういうことも御検討いただければなと思います。

○近藤委員 私の知っているところだと、静岡県三島市とか、他にもありますけれども、駅前にウォーキングルートをつくって、それを女子高校生たちにアプリにしてもらって、アプリを見ながら歩くと、ポイントでピッと、こういうのがあるよというのが出てきたり、今日歩いたのはこれだけですとカロリーがアプリに出たりというのをやって、思わず歩きたくなる仕掛けづくりみたいな感じで、実際にたまにイベントでスタンプラリーとかもやっているらしくて、おもしろいなと。東京都でやるとなると規模が大きいので、そういうのを都下の各市町村とかでプロモートできるようなことが投げかけられるとおもしろいですね。

○宮地部会長 そうですね。ありがとうございます。

結構地域からいい意見がたくさん出ているので、ぜひ活用いただきたいということと、もう一つは港区の事例を見ていただいたと思うのですがけれども、住民の方も当然たくさん港区にもいらっしゃるのですけれども、もちろん企業とかがもっとたくさんありますよね。なので、職域なんかでこのマップをどう使ってもらえるのかという仕組みをうまく考えてもらえるといいのではないのかなと思ったのですけれども、そこら辺の連携などは、先ほどの「地元があなたを待っている」は結構職域との連携ということを考えていたのですけれども、このウォーキングマップと職域との連携をどのようにお考えなのか、事務局、お考えがありましたら。

○山下健康推進課長 今月、職域の健康づくりの部会のほうも開催いたしまして、その際にはウォーキングマップのひな形に沿ったマップを、さまざまな自治体で今年度、来年度にかけておつくりいただく予定であるということを含めて情報提供いたしました。

ポータルサイトを秋に開設予定だということもお伝えしておりまして、そういった情報提供を職域の中でもぜひお願いしたいということをお伝えしました。そういう中で御質問として、例えば地元の企業がそこの区役所、市役所に行って紙のマップをもらえたりするのかとか、そういう御期待もちょっとあるようでございますので、また紙でという話になると、またどのくらいとか、たくさん刷って配り切れない場合とか、いろいろなことが考えられるので、なかなかニーズを見込むというところは今の段階では難しいかと思うのですけれども、まずは地域と職域が連携することによってこういった健康づくりのリソースがあるというところを、職域と地域でうまく共有していきながら、今後マップをつくる時に、紙のニーズがあればそういったものも見込んでおつくりいただくということもいいかと思えますし、都の包括補助で支援する際は対象者を住民に限っているわけではありませんので、通勤、通学の方も含めたそういったことを考えておりますので、ニーズがはっきりあるというところがまた職域から伝わった場合には、そういったことも対応可能かなと考えております。あと、ポータルサイトであれば、その情報が広く共有されることによってマップの存在が広く伝わり、また先ほどヒントをいただきましたのが、双方向

という点では逆に地元にお住まいの方でなくても、職場にいらっしゃる方が会社の周辺のいろいろなことを。

○宮地部会長 ここはいいよとか、帰りにここに寄って歩くのだとか。

○山下健康推進課長 そういった形で、また情報提供をいただくようなことも考えられるかなというところで今ヒントをいただきましたので、引き続き地域と職域の連携をうまくとっていきながら、いいマップがつくられ、それが広く活用されるというふうに持っていきたいと考えているところでございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

大分御意見も出たところですのでけれども、他に何か。いいですか。では、また最後までに何かございましたら、ぜひ。

○山下健康推進課長 資料7-3ではイメージのほうを出しておりますけれども、これにつきまして。

○宮地部会長 ウェブのですね。何か枠組みだけの様な感じで、まだ全体のイメージができないのですが、コンテンツ的にはそんなに大きな問題はないと思うのですが、ウォーキングの効果のところ結構医学的なものばかりが並んでいるという印象を私は持ったのですね。せっかく社会とのつながりだとか何だというようなことを他の資料でも、先ほどの「地元があなたを待っている」でもそうですけれども、社会とのつながりを持つことで健康になりますよということをやっているのであれば、ウォーキングの効果は健康のことだけではなくて、たまに歩くあの人と会うとか、挨拶をするようになったとか、地域のことがわかったとか、地域の中でここは危ないと思うところが見つかったとか、地域とのつながりがこれによってできましたみたいな効果についても、社会学的効果というのですか、そういうものも言及しておいたほうがいいのではないだろうかという印象を持ったのですが、いかがでしょうか。

先生方、これを見ていただいて、資料7-3①、②、③と、何となくまだストラクチュアしか載っていませんので、直感的に具体的には言えないかもしれないのですが。

○倉橋委員 では1つ。トップページがいつも同じだと、複数回行きにくい。飽きてしまいますね。スマホの例えばゲームにしろ何にしろ、イベントをやったり、あるいは今日のお勧めポイントはこれとか、日替わりとまではいなくても週替わりでもいいから、例えば今日は安全に歩くためにというようなページをポイントとして見てください、今日はお花見の季節なのでお花見の何区の何々ロードがお勧めですとか、大変ですけれども、そういう幾つかのものを考えて、何十個か業者さんか何かに考えてもらって、それを順番に出していくとか、そういうことをするとアクセスが増えるように思うし、何よりも自分が利用するときにも、そういう工夫がしてあると思うのですが、いかがでしょうか。

○宮地部会長 さすがに週ごとには難しいかもしれないのですが、月ごとぐらいには何か変わっていくといいかもしれないですね。実際には、来年度も含めると、16とは言い

ませんけれども、十幾つの区市町村のマップが出てきますよね。それを例えば順番に紹介していくというだけでも、トップページで特別なことをしていただかなくても、できた順に紹介していくということをやだけでもいいかもしれないですよ。ゴールデンウィーク前になったらちょっと遠いところのものであったり、年度初めだったら都心といったような、いろいろどんどん入れかえていく。月ごとぐらいにはやっていただけると、少しいかなという印象を持ちますね。

○近藤委員 これは都でつくるのですか。

○山下健康推進課長 サイト自体は東京都のホームページの中に設ける予定でございます。ですので、ここに実際のマップのデータを収録させていただきまして、多言語対応等を含めて活用いただきやすい形での掲載を考えております。

○宮地部会長 このコンテンツを多言語にするのは結構大変ですよ。全コンテンツで、中国語、韓国語、英語。結構なコストがかかりますよね。

○倉橋委員 とりあえずは英語だけでいいような気がするのですけれども。

○宮地部会長 中国語、韓国語までやると、もうそれだけで倍。英語だけだと、中国語はその3倍、韓国語まで含めるとその6倍とか10倍とか、下手をするとそうになってしまう可能性もないのですか。どこか簡単にやってくれるのですか。

○山下健康推進課長 もとのマップの情報量によるかと思いますが、相当情報量が多いと、確かなかなか多言語対応というのはハードルが高いかと思いますが、やはりいいマップはぜひ広く活用いただきたいということがございますので、できる限り頑張ってやっていきたいと思っております。

○宮地部会長 それはすばらしい意気込みでございます。でも、余り無理をされずに、最初は英語からとか、あるいは基本的には大多数の住民の方、文字数や情報量は多くても多くの方が活用できるという視点を少し持っていただいて、国際的な対応は順を追ってというような発想を少し持っていただいて、何が何でも4カ国語でやるのだということになってしまいますと、それで予算を食われてしまうというのは非常にもったいないという印象を持ちますので、グローバル化は東京都にとっては重要だと思うのですけれども、ではスペイン語はどうなのだという議論にもなりかねませんので、一度御検討をいただいたらどうかと思っております。

○倉橋委員 中国の方も韓国の方も英語はある程度読める方が海外旅行をするとは思いますが、私はまず第一に英語優先で、それ以後は余裕があればよろしいかと思っております。

○宮地部会長 1度御検討ください。いろいろ御方針もあろうかと思っておりますけれども。

他に何かコンテンツ、あるいはつくりだて。2ページ目を見ていただくと、これは特別区と市町村は分かれていたほうがいいのかですか。あえて分けてあるのだろうと思うのですけれども、いかがですか。

○山下健康推進課長 フォルダを分けているようなイメージなので、多分全部あいうえお順で表示すると、ちょっと探しにくいかなということがございます。ただ、グーグルマッ

プとの連携も行いますので、先に地域を見てもそこで直感的にたどり着くという方法もあるかと思えますので、その収録の方法は何か何でもこの形というわけではなくて。

○**宮地部会長** 例えば地図が載っていて、場所をポチッと押すと、目的地ビュッと表示されるといいですね。

近藤委員。

○**近藤委員** 幾つか。1つは、今、倉橋委員がおっしゃったことはすごく大事だなと思って、今の季節ならお花見お勧めコースみたいなものを全域からやったり、そういう季節を感じさせるようなものとかを載せられるといいなと思いました。

あと、これは本当に東京都でやっていく大きなサイトであるというのであれば、ここをポータルにして、さっき言った、例えば自分の御自慢コースを投げられるというのをここに持たせるようなことも可能なのですかね。やり方として。

○**宮地部会長** そうですね。マップそのものになってなくても示せるみたいな。

○**近藤委員** そこはどうなのですか。グーグルマップ上に書けるようなことも可能なのかなと思いますけれども。

○**宮地部会長** どこまでこの会社がやってくれるかというところにもなってくるかもしれませんね。

○**近藤委員** これはどこか1個の企業に投げて、継続的にメンテしてもらうようなイメージなのですか。

○**山下健康推進課長** まだ具体的な契約のやり方等は決まっておりませんが、こういったことを得意としている事業者のほうにお願いする予定でございます。

○**近藤委員** こういうのを習慣づけるときの要素は4つぐらいあると言われていて、1つはきっかけが大事なのですね。こういうのを見て、このコースは楽しそうだなといって歩き出す。次に大事なのは報酬ですね。それをやると何かいいことがあったと。自分の中でそれで満足するというのは当然なのですから、さらにそこに引きつけるには、そこで例えば10回歩くとポイントが上がるとか、ランキングが上がるとか、そういうゲーム的な要素を入れる。あと、リワード、報酬も同じだと飽きてくるので、そこにいろいろバリエーションを持たせたりするというのも大事で、先生がおっしゃったいろいろな情報が出てくるということも、飽きが来ないような情報がどんどんインプットされていくという意味でとても大事だなと思います。

もう一つは、やはりソーシャルとあって、みんなでそこに交流があったり、自分がやっているよというのをフィードバックできるような仕組みもあるとはまるのですね。そういうようなあたりもあるので、そういう仕掛けづくりが得意な業者さんとうまく組めると、すごくアクティブなサイトになるなと感じました。

もう一つ、宮地先生がおっしゃった社会的効果ですね。これは例えば新しいつながりづくりということもとてもあると思うのです。つながりが大事だと言っているわけですから、それは一つ入れていいなと。

結構出会いを求めて人気のジョギングコースを走る方がいますね。ジョギングが趣味な方と出会いたいとか。

○山下健康推進課長 ありがとうございます。

○宮地部会長 そういう切り口も必要かもしれないですね。

○近藤委員 健康ということだけで来てくれる人は、もうそこで健康は動機づけされていますので、そうでない方を呼び込む戦略もちょっと欲しいなど。

○宮地部会長 体の健康だけではなくて、社会的な健康、精神的な健康、そういうものに結びつくという観点を持っていただけると、将来的にはレガシーというものにもなっていくと思います。体の健康ということだけを視点に置いてはオリンピックのレガシーにはなり得ないと思います。これによって社会がよくなったという要素があることが求められますね。

○倉橋委員 参加しましたという宣言を自分でして、位置情報を入れて、アバターはさすがに出せないかもしれないけれども、そういうような点でもいいから。

○宮地部会長 ログが残るといふか、足跡が残る。「いいね」だけでもいいのだけれども、歩いてみましたと。

○倉橋委員 軌跡か、あるいは点が動いているとか、そういうようなのをやるとおもしろいかもかもしれませんね。

○近藤委員 各コースに「いいね」できたりとか、歩きましたというコメントを入れたりとか。

○宮地部会長 書き込めるとか。トイレがなくて困ったとか、ここは北風が強かったとか。

○倉橋委員 最新の20個とか30個だけ常に載るようにしておくと、どんどん更新して、新たに書く人も多いかもしれないですよ。

○宮地部会長 今の社会だと、IT業者さんであればそんなに難しいテクノロジーではないと私は思うのです。要するに、どんどんフィードバックがかかるというか、つくったものをどんと置いて1年間動かしませんというのではなくて、アクティブというか、生きているサイトというイメージですよ、先生方が多分おっしゃっているのは。都からのイメージとしては今まで余りなかったかもしれませんが、そういうのも一つあればいいかな。

○近藤委員 そういう業者さんは知っていますよね。

○宮地部会長 ぜひ。

○倉橋委員 あと、ルートの中でのベストショット。

○宮地部会長 写真。フェイスブックみたいな。すごいね。アイデアがどんどん出てきますね。

○倉橋委員 「いいね」で決めればいいわけですね。

○宮地部会長 だから、コストをかけないようにするということと言うと、やはりツイッターであったり、フェイスブックとの連動ということになってくるのかもしれないですね。そこに行ける。東京ウォーキングマップのページがあるみたいな、あるいはツイートペー

ジがあるとか、リツイートできるということなのかな。ありがとうございます。

他に何かページについて。またこれは具体的になった段階で、意見というか、御提案をしていただく機会があるのですか。

○**山下健康推進課長** ぜひ実際につくる段階で、さまざまな御助言をいただければと思っております。

○**近藤委員** コンペしたりというのは可能なのですか。今、コンペ開発というのはすごく人気ではないですか。一般の方に、例えばウォーキングマップを東京全体につくって、そこをみんな活用してもらって、そのアイデアとウェブサイトの案を募集しますとコンペして、よかったところに、競り落とせるのかどうかまでわからないのですけれども、やってもらったりとか。

○**宮地部会長** 今のウェブページのつくり方は、例えば今年度はこの予算がついたからイラストとか豪華なものをもってぼんとつくったら、それがアップデートされない形だったら、また来年もよりよくするためにどんどんコストが増していくという構造が、更新するたびに生じますよね。フレームワークだけをしっかりつくっておき、オートマチックに参加した人がどんどん新しいものにしていくというアクティブなもの。都のものとしてそれがふさわしいかどうかという議論は少ししていただかないといけないのですけれども。ウェブページを管理するのにコストがかかるとは思いますが、そういったあり方も頭に入れておいてもらって、検討して下さい。

○**近藤委員** 参考になるのは、グーグルがやっているインGRESというサービスで、領地とりゲームみたいな感じで、そこに行くと、3点行ったところが囲まれて自分の陣地になるというので、あれにはまって歩きまわっている人たちがいるらしくて。

○**宮地部会長** 国とりゲームみたいになっているのですか。

○**近藤委員** 私の友達もフェイスブックに成果を載せています。そういうのを、インGRESまではできないのですけれども、何かうまくマネージするようなアイデアとかは多分企業さんがいっぱい持っているので、そういうアイデアをむしろ募集するぐらいにしてもいいのかなと感じました。

○**宮地部会長** それでは、意見もたくさん出たところで、次の議題にそろそろ移らせていただきたいと思います。

続いて、議題（4）「都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」結果の活用について、事務局より御説明をよろしくお願いします。

○**山下健康推進課長** 資料8になりますが、あわせて机上配布6の報告書のほうもばらばらとめくっていただければと思います。こちらの報告書は、昨年度御紹介させていただいたところがございますけれども、区市町村ごとの状況を比較できるような形で情報を幾つか載せているところがございます。その数値として出しているものを、資料8では小平市の地域健康づくり推進員の大崎様が、多摩小平保健所管内の5市について、アンケートの問の番号に記載のある項目について、5市のランキングを表示する形で、合わせたら下の

レーダーチャートのほうで各市の強み、弱みがわかるような形に出していただいているところでございます。

このレーダーチャートは順位の形になっておりますので、私どもの報告書のほうで使っているZスコアとは異なるのですけれども、大崎様のお話としては、ランキングの順位をレーダーチャートの形で表示すると非常にわかりやすいからという御提案でございました。これを実際に小平市の健康づくりの集まりの中で発表されまして、5市の傾向がよくわかる内容だということで、非常によかったということでございます。

こうした意味では、私ども区市町村ごとのデータを報告書の中で紹介させていただいたことが、それぞれの区市町村の状況にある意味客観的に検討いただく一つの素材ということで活用いただけたいい事例ではないかなと考えておりますので、こうした活用の仕方を含め、今後、多摩地域であれば都の保健所管内の市町村の状況を知るというやり方、特別区であれば近隣の区や市と比較していただくといったような使い方ができるかと思っておりますので、一つのやり方ということで参考にさせていただけるのではないかなということで御紹介させていただきました。

私どものほうでも、さまざま報告書の中では、こちらの机上配布資料をご覧くださいますと、例えば区市町村別の状況ということで、横棒グラフとマップを対比する形で20ページ以降、あるいはレーダーチャートの形で32ページ以降に出しておりますし、第2部のほうですと、68ページ以降が区市町村の状況の横棒グラフで、その後にレーダーチャートが続いておりますので、これを単純にこの1回の調査結果ということではなく、それぞれの区市町村あるいは保健所の管内で、健康づくりの取組を行うに当たっての糸口という形で、このデータが全てということではありませんが、きっかけにさせていただけるという意味では、大崎様の取組は非常に参考になるのではないかなということでございます。

説明は以上でございます。

○宮地部会長 どうもありがとうございました。

事務局から御説明をいただきましたけれども、この地域のつながりに関する意識・活動状況調査活用の事例についての御説明ですけれども、何か御感想とか御意見がありましたらいかがでしょうか。

○倉橋委員 非常に簡単でわかりやすいですよ。ただ、悪いところには余りこだわらずに、いいところと改善をするべきところという捉え方で評価してもらえれば、今まで順番とかそういう悪いところで、うちの自治体が最下位だと困るところが結構強く言われていたこともありましたが、非常にいい使い方だと思います。

○宮地部会長 当初は、都が率先的にこういうことをやろうという意見はあったのですけれども、そうではなくて順番に羅列という形に落ちついていただけです。それぞれの地域の方々が近隣と比べてどうかを、このデータを使って比較いただいているということで、情報を公開により活用していただけたという一つの事例だと思います。

すごく近い地域なのですけれども、随分格差があるという印象を持ちました。なぜ、東

久留米市がこんなに小さくなってしまふのだらうという分析をやっていただけると、東久留米市の方は助かると思うのですが、何か御感想とか御意見はありますか。

立川市、あるいは府中市、多摩は比較的近隣ですけれども、いかがですか。

まさにこちら辺はちょうど真ん中のな、地域的にも真ん中なのですから、つながりについても強いわけでもなく弱いわけでもなくという、中位グループの集まりなのですが、結構格差がありますよね。東久留米市と清瀬市なんて、北と南で本当に隣同士なのですから、間に埼玉県が針のように刺さっているからでしょうか、こんなに違うのはなぜだろうという感想なのです。

○近藤委員 概略平均というのは何ですか。

○宮地部会長 私も理解ができないのですけれども、合計点なのかな。でも、「. 3」とかありますよね。

○山下健康推進課長 これは、各市の詳細なデータを公表していなくて、この報告書をもとにやっておりますので、65歳以上・未満、男女別という4群で基本的にデータを公表しておりますので、それを母数が異なるものを単純に平均されたということです。ですので、大崎様の場合は概略平均という言葉で表していますので、正確なその住民の母数に一致するわけではない。

○宮地部会長 大きいほどいいとか、小さいほどいいというのはあるのですか。

○山下健康推進課長 同じ条件で計算しておりますので、平均値としては数字がいいものがランキング的には上に来るようになっておりますので、そこは取り扱い間違っていないと思います。

○倉橋委員 具体的に80.3というのは、健康状態がよいと答えた人が平均で80.3%という意味ですか。ばらつきが、標準偏差が3.7という意味ですか。

○宮地部会長 順位とは関係ないということですね。

○山下健康推進課長 そうですね。その4群から計算できる数値を使っていらっしゃると思います。その数値しか区市町村ごとのものはございませんので。この標準偏差が大きいということは、年代間もしくは男女間のばらつきが大きいと見ていただければ。

○倉橋委員 つまり、東村山市は健康状態が26位で低いけれども、実は平均80、標準偏差が3.7ということは、70幾つぐらいの数字でよいと思っている人はそんなに低くない、そんなに健康状態がよいと思っている人が少ないわけではない、そういうふう解釈すればいいのですか。

○山下健康推進課長 この問1ですと、例えば報告書の20ページの数字を、こちらは男女別、年代2群別でやっておりますので、それぞれの数値を拾って平均したものが概略平均値で、恐らくこの4群間から計算される偏差を概略ということを出していらっしゃるかと思います。

○宮地部会長 順番とかランキングとはまた別問題でということですね。一個一個の設問について5つの区市町村の男女別、年代別平均値が幾つで、そのばらつきが幾つでしたか

といういわゆる記述統計データということですね。

○山下健康推進課長 はい。

○倉橋委員 例えば標準偏差が大きいという10番を考えると、市が健康づくりの取組に熱心かというのは、問5のほうは46.3%よりもかなり高いところだけれども、問24のほうは46%よりもかなり離れた数値だと、そういう解釈でいいのですね。

○宮地部会長 恐らくそういうことでしょうね。推測するに。

○倉橋委員 わかりました。

○宮地部会長 他にいかがでしょうか。御質問であったり、御意見は。こういう分析ができるということなので、別に公表しなくても、御自身たちの区市町村で近くのところとどうでしょうかという比較ができますというひな形だと。簡単な方法ですけどもということですね。

近藤委員、どうぞ。

○近藤委員 この生のデータを公表する予定はないのですか。

○宮地部会長 事務局、これは生のデータを公表する予定はありますか。

○山下健康推進課長 生のデータは、各区市町村のほうにはそれぞれの住民の方の分を御提供しております。

○宮地部会長 CSVみたいな形で。

○山下健康推進課長 はい。ただ、これは行政の単位を超えてというところは、事前にそういった使用を前提とした御了解を得ていないということがございますので、それ以上の公表はできないということです。

○宮地部会長 ただ、この委員の中で研究用に使いたいとか、分析用に使いたいとか、そういうニーズがあったときにはどうなりますか。

○山下健康推進課長 国の厚生科学研究よりはちょっとハードルは高いのですけれども、申請いただいて個別に判断という。

○宮地部会長 使用許可申請。

○山下健康推進課長 はい。国の厚生科学研究ですと、もともと法律自体がさまざまな学術に利用できるようになっていっているので、比較的手続は簡単なのですけれども、都の場合は実際にそれが認められるかどうかということについては、なかなか難しいところがございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

○近藤委員 大学生とかの格好のデータで、卒論とか、社会学系とか福祉系の学生さんなんかにとってはいい材料にならないかな。首都大学あたりの学生さんが使えるとおもしろいな。そうすると、何か新しいことを発見してくれて、こういうのがつくれると、こっちもいいなと思いました。

○宮地部会長 そうですね。ぜひ先生、使用許可申請を委員として。

○近藤委員 使いたい学生がいたら。

○宮地部会長 実際に今年度の公衆衛生学会において事務局でこの内容を御発表していただきました。微に入り細に入り分析結果を公表したわけではないのですが、この報告書をもとにどういう施策を東京都としてやりましたという観点で発表していただいて、多くの先生方から御質問や御意見をいただき、今後の活用の方向性も見えたところもございます。

○近藤委員 このばらつきというのはすごく大事ななと思って、こちらでそれこそ事務局がやるのかわからないのですが、例えば地域差が大きい指標はこれです、その理由は地域のこういう要素が関係していますとか、そんな情報を出すに役に立つかもしれないと思いますね。

○宮地部会長 そうですね。特に自分のところはこのスコアが悪くて困っているというか、何とかしたいのだけれども、どうしたらいいですかというアドバイスに基づくような研究、分析ということですよ。

○近藤委員 都市像の違いというのはすごく影響するのですが、そうではなく、例えばこういう多摩小平保健所管内の似たような中でも結構違って、それに関係するのがこれですよとか、細かく分析すると、公民館の活用度とかそういうのと関係していたということが、私たちの経験上あるのです。そういった情報も提供してあげられると、より役立つかなと思います。

○宮地部会長 ありがとうございます。

では、いろいろ御意見もあろうかと思っておりますけれども、続いて議事（５）に行かせていただきたいと思います。

その他ですけれども、２つ事務局から挙がっております。まず、平成２８年度の健康づくり事業推進指導者育成事業について、事務局から御説明をお願いいたします。

○山下健康推進課長 資料９「平成２８年度健康づくり事業推進指導者育成事業計画（案）」でございますが、平成２８年度の計画でございます。

この研修でございますが、東京都健康推進プラン２１（第二次）と東京都がん対策推進計画（第一次改定）の基本方針でございます健康寿命の延伸、健康格差の縮小、がんの予防の推進を図るため、地域や職域において健康づくりの推進主体である区市町村や医療保険者における健康づくり対策の指導的役割を担っていただく人材の育成を目的としたもので、東京都福祉保健財団に委託して実施しているものでございます。

具体的な健康づくり事業の実践に必要な健康づくり施策や、栄養、運動、休養などに関する知識、技術等の提供を目的として、さまざまな分野から来年度は２５講座を予定しております。

身体活動運動分野では、以前に宮地部会長に講師をお願いしておりました。また、地域とのつながり、ソーシャルキャピタルの分野でございますが、裏面の１６番でございます。こちらは今年度から近藤委員に御講義いただいているところでございます。

本日の場ではこのような研修を実施しておりますという御紹介でございますが、より多

くの自治体様、各区市町村の御担当の方に御参加いただきたいと考えているところございまして、実施時期やお知らせをお送りする部署に関しまして、御意見等を本日頂戴できればというところございまして、よろしくお願ひいたします。

○**宮地部会長** 事務局から説明をいただきましたけれども、この講習会について御質問や御意見等がありましたらお願ひいたします。

対象者はどういった方々でしたか。

○**山下健康推進課長** 基本的には区市町村の健康づくり等の担当者として、健保組合等の担当者でございます。実際の参加状況としては、両方にお声かけしているのですが、区市町村の御担当の方はなかなかお忙しいようで、比較的健保組合の方々の参加者のほうがやや多いかなという現状がございまして、できれば区市町村、自治体のほうから参加者の方も少し増えていただければというところがございまして。

○**宮地部会長** 初任者の若い担当者の方、あるいは異動間もない方で地域保健のことを余り御存じないというような方に、ぜひ積極的に御推薦いただいて、御参加いただけるとありがたいと思いますので、御協力をお願いしたいと思ひます。

もう決まっているのですけれども、内容などについて何か御意見などがあれば、将来の改善につながると思ひますけれども、いかがですか。

これは受講生の方々は非常に熱心で、講師も勉強になりますし、これを全部受けたら相当な学修になります。ビッグネームの先生方に御協力をいただいて、東京でなければなかなかできないものなのですけれども、こんな機会は一生のうちに二度とないというぐらいの中身ですから、地域の専門職の方に、御活用いただきたいです。ちょっと宣伝不足ではないかと思ひますが、先生方、御認識でいらっしゃいましたか。

○**横塚委員** 質問なのですけれども、例年どのタイミングで全体の年間のスケジュールをお示しいただいていたか、ちょっと余り意識が。半期ごとみたいなスケジュールはあったような気もしていたのですけれども。どうしても年間の事業の日程を早目に組んでしまうものですから、これがあるのだったら健康教室の日程をもうちょっとずらせばよかったみたいなことが例年あって残念な思ひをするという部分がございまして、前年度のうちからお知らせいただくというのはなかなか難しいこととは思ひますけれども、できれば年度の早い時期にいただくと、例えばこういうものを受けた上で講座の内容を少し下期のものは工夫をしたりとか、ここで得た情報を活用してやっていくみたいなこともできるかなと思ひますけれども、従来はどのようにしていただいていたでしょうか。

○**宮地部会長** これは全部一講座一講座が違う日にありましたか。今、このプログラムでは一講座一講座、全部違う日ですよね。もともとこういう作りでしたか。

○**山下健康推進課長** 午前から行うものも幾つかございまして、なかなか1日で出なければいけないとなると、自治体の方の参加は難しいというところを伺っておりますので、半日あるいは午後から職場を出る形でも何とか受けられるような形でというほうが参加者は多いということで、今こういう形にしております。

御案内のタイミングでございますが、どうしても講師の先生方との日程調整等が2月、3月ぐらいまでかかってしまうことが多いので、原則的に年度当初の4月に予定を各区市町村にお知らせしていただいております。再度の周知を5月、8月、10月にも改めて行っております。

あと、4月もしくは5月の主管課長会、保健師の連絡会のほうでも御案内させていただいております。ただ、確かに年度のスケジュールが決まっています、なかなかこちらに合わないというようなお話等もいろいろ伺っているところがございますので、できる限り参加いただきやすいような日程、曜日とか時間帯はどういう状況かということとはまた伺わせていただきながら、次の計画を立てる際には参考にと考えて、今年度も一応そのようなつもりではつくっているのですけれども、通常アンケートをとるとき、どうしても参加いただいた方の御意見が伝わって、御参加いただけない方の参加できない理由を拾い上げることがなかなか難しいので、こういったところをぜひまた御意見を伺いながら、改善できるところはしていきたいというところがございます。

○宮地部会長 よろしいでしょうか。

○横塚委員 ありがとうございます。

○宮地部会長 では、ぜひ地域の委員の皆様は、担当の方々に御周知いただいて、1回でも、2回でも、3回でも、違う担当者が来ても構わないと思うので、参加していただけるように御周知いただければと思います。

定員80とか50とか、回によって違うのですけれども、実際に充足率は例年何%ぐらいですか。もちろん定員オーバーになる回もありますよね。それで何人もお断りするところもあるでしょう。

○古川健康推進課課長代理 ほぼ充足しているのですけれども、ちょっとハードルの高い研修といいますか、グループワークで構成していますとか、課題を持ち帰ってまた次回みたいな2回コースになっているようなものについては、参加のときの気持ちのハードルが高いということもあって、物によっては定員に達しないものもあります。ですが、基本的にはほぼ定員に達している状況で、場合によっては定員を非常に超えて、各団体、各区市町村お1人でという形で、お断りをさせていただいているようなこともあります。

○宮地部会長 ありがとうございます。

よろしいですか。事務局。

○山下健康推進課長 はい。

○宮地部会長 了解いたしました。ぜひできるだけいっぱいになるように、周知もよろしく願いいたします。

これは進めていただくということで、もう一つの議事(5)その他の2番目で、職域部会での検討事項がどのようになっているかということについて共有をしたいと思います。事務局より御説明をよろしく願いいたします。

○山下健康推進課長 資料10をご覧ください。「会社の元気は従業員の健康から！」と

いう両面のリーフレットでございます。

こちらは部会に御参加いただいている事業者団体から、従業員の健康づくりに取り組む中小企業の御紹介をいただきまして、インタビューを行いました。事例の掲載と、裏面のほうに地域産業保健センターなど、中小の事業者にとって活用しやすい情報を掲載し、表裏1枚で完結する形で作成いたしました。

このリーフレットでございますが、事業者団体等を通じて配布いたしまして、健保組合等からも加入の事業者分の配布の御希望があるなど、追加配布も行っており、増刷もしているところでございます。

内容でございますが、表面の事例1が従業員の健康づくりの取組のきっかけとして、4年前に夜勤明けの従業員が現場でけがをしたことから、夜間の業務について外部委託を行って、そのために経費の増加はあったのだけれども、逆に社員が勤務にメリハリができて、余裕のある丁寧な仕事が可能になったということで、新たな仕事の依頼が増えたということもあり、売り上げのほうはむしろ増加したということがございます。あと、こちらの会社では地域産業保健センターの産業医の健康相談指導等を活用していらっしゃるということでございます。企業データにつきましては、中ほどに記載がございますのでご覧ください。

事例2はタクシー会社でございます。こちらでも従業員の健康づくりを非常に意識されている会社です。タクシー会社ですと、割と出入りが激しいといえますか、勤続年数はグラフにありますように平均9.2年というのが全国平均でございますが、こちらの会社では16.5年と、かなり長いということがございます。

若い従業員の方が入社後、どんどんメタボ化していくということに気づかれて、若年者を中心に健診をしっかり受けてもらおうということで、健診結果はどうですかという声かけや、タクシー会社ですと夜勤明けのタイミングのときに、日によって違いますけれども、社員を集めて研修会のようなタイミングが月1回あるということで、そういうときに受診状況や入院された方が復帰されたといったようなことを報告して共有しているということでございまして、従業員同士、みずからの健康状態について話題にするようになりますし、会社が従業員の健康についてかなり気を配っているということが共有されたことによって、従業員自身の意識も高まってきたり、健診、保健指導の受診率100%と、これはタクシー会社本来はそうあるべきなのですからけれども、それをしっかりとやっているというところがございます。健診も保健指導も受診するのが当たり前という風土ができているということでもございました。

リーフレットの裏面のほうには、先ほど申し上げましたように、さまざま情報を載せておりますので、割合に端的に必要な情報がわかるようなリーフレットということで、特に経営者の方にこういったものをご覧いただきたいという趣旨で作成したものでございます。

もう一つが資料11でございます。こちらは平成27年度職場の健康づくり講演会でございますけれども、「業種から考える健康経営」ということで、こちらは会社の事業の特性

によって1日の過ごし方がかなり変わってきますので、生活習慣病のリスク等が大きく業種によって違うというところを、これは平成25年度から分析を続けているところですが、こうした内容を共有いただきながら、各企業でさまざまな取組を行っているところを、リーフレットでも取り上げました東京クリアランス工業株式会社様や鳳自動車株式会社様ですとか、島村運輸倉庫株式会社様といった事例を御紹介いただきました。あわせて、協会けんぽ東京支部様も入っていただきました。

職域の部会長の古井先生のほうから基調講演をいただきまして、パネルディスカッションを行ったわけですが、実はここに挙がっておりますのは、島村運輸倉庫株式会社様の社長さんですけれども、1年前に行いました同じ趣旨の健康づくり講演会の中で、他の会社の取組を参考に始められたというところが、こういった情報共有の場といえますか、こういった講演会の場が経営者の方にきちんと響く場になっているなということが改めて事例としても共有できましたので、こうした取組を職域の場で行っておりますので、地域職域連携の中でもこういった情報共有をしていただきながら進めていければなというところがございましたので、本日御紹介させていただきました。

以上でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

事務局から今年度の職域部会での検討状況についての御説明をいただきました。職域と地域の連携は非常に重要なのですけれども、私どもから職域はこうしろと言うわけにはなかなかいかないかもしれませんけれども、こうしていただけるといいですねという御意見は言ってもいいと思うので、何かありましたらぜひ。

倉橋委員。

○倉橋委員 鳳自動車株式会社様、こういうことをやるというのには、やはり社長さんか、そういうところの意思決定というか、方針決定が一番重要だと思うのですが、東京クリアランス工業株式会社様は代表取締役社長からの一言で、鳳自動車株式会社様のほうは常任顧問からの一言で、これはひょっとしたら社長が引退して常任顧問になったのかなと思って見たら、こちらのほうは吉澤幸子様という女性の方なのですね。これはどういう立場の方で、つまり鳳自動車株式会社様は社長の意思決定というのはどういうぐあいに始まったのでしょうか。

○山下健康推進課長 この吉澤様という方はずっと総務畑で、人事管理の御担当の方で。

○宮地部会長 健康づくり担当みたいな。

○山下健康推進課長 そうですね。健診等を含め、従業員の健康管理にずっと携わっている方なので、もう本当に従業員を御自分の家族のようにご覧になっている立場の方でございます。

協会けんぽのほうに、以前は業種別の健保だったか。

○宮地部会長 タクシー業界連組合みたいな。

○山下健康推進課長 協会けんぽにされたのは比較的歴史は浅いようなのですけれども、

健診をきちんと受けていらっしゃる、保健指導をちゃんとやっているということで、協会けんぽのほうでもこういった取組として非常に進んでいるということで、協会けんぽから御紹介をいただいたという経緯でございます。ですので、従業員の健康管理という中で、徐々に健診を受けるのが当たり前だという風土をこの吉澤様という方がうまくつくってこられたというところが大きいのかなというところでございます。

○宮地部会長 小さな企業ならではの取組ということですね。

○山下健康推進課長 おっしゃっていたのが、従業員の方が次の健診のスケジュールはいつですかと、そういったのを非常に楽しみにしていらっしゃる。

○宮地部会長 それはすごいですね。

○山下健康推進課長 それで、確実にそれを受けるように、出勤のスケジュールとか、そういったものを皆さんきちっと調整してやっていらっしゃるということでございました。

○宮地部会長 ありがとうございます。

○倉橋委員 担当の方もそうですし、そういう方針を決定した社長さんも偉いと思うし、そして勤続年数で費用的な効果の部分が余り表現されてはいないのですが、職場環境という意味ではこれは非常に改善があったというのがよくわかります。いい事例だと思います。

○宮地部会長 いい事例だと思います。やはり勤続年数というのはドライバーの経験値になりますので、長いほど安全かつ効果的にお客様を運んでいただけるということで、恐らく質の高い運転手さんが定着されていらっしゃるのではないかとということがこういうことから予想できますね。

他に何か御質問などはありますでしょうか。

今のことに若干私のほうから追加させていただきますと、こういう健康づくりに対して責任を持って取り組まれることをCHOと最近はやっているのだそうです。チーフ・ヘルス・オフィサー、最高健康責任者。社長とか経営者のことを最高経営責任者と言いますが、健康について責任をとる人という役割を会社にも持たせましょうという取組を神奈川県などがリードしていますけれども、進んでおります。実は健康経営という観点から責任者を置くことも重要です。多分この方がそれを担われていらっしゃるのだらうと思います。

他に何か御質問とか御意見はありませんか。よろしいでしょうか。

○山下健康推進課長 講演会の内容は、速記録をホームページ「とうきょう健康ステーション」の中で公開してございますので、もしよろしければご覧いただいて。

○宮地部会長 過去のものもさかのぼってということですか。

○山下健康推進課長 今年度の分でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

以上で、本日の議題は終了いたしました。会議全体を通して、何か御意見とか御質問がありますでしょうか。渡部委員、三澤委員、何かよろしいですか。

○三澤委員 細かい確認で、先ほど資料5の活用ということで、私どもは田舎過ぎて話が

それになってしまうかもしれないのですけれども、自治会が28ありまして、地域性から言っても、いろいろなセクションとか役場においても行き届かない、目に触れない方が多いのかなど。逆に、田舎なので、毎月1日と15日に自治会回覧というのがあるのですね。これを広報で紙面を割くというのは、このボリュームはなかなか割けないので、もし許されるのであれば、ある一定の部数をお預かりさせていただいて、自治会回覧みたいな形で1回全町に周知をさせていただいて、興味がある方にこういうページをご覧くださいというアプローチをしていただければいいのかなど、ちょっと言いそびれてしまったのですけれども、聞きながら思い浮かんだことです。

○宮地部会長 すばらしいと思います。ありがとうございます。回覧板はすごく効果的だよねという議論をどこかでしましたよね。たしか前回でしたかね。先ほども、よくも悪くもつながりがあるところは回覧板みたいなものつながり醸成効果というのはすごく強いようです。何の調査結果でしたか、回覧板を使うとコミュニティーの醸成ができるというお話を、どこかで耳にしました。なので、ぜひ。

○三澤委員 回覧板で回すと、御近所さんで声を掛け合う機会が多くなるみたいな感じなんです。

○宮地部会長 ぜひ三澤委員試してみてください、それで何かアプローチがあったかどうかなど、またお知らせいただけるとありがたいと思います。貴重な御意見をありがとうございました。

他はよろしいでしょうか。

ありがとうございました。以上をもちまして議題は全て終了でございます。時間ぎりぎりになってしまいましたけれども、この会はこれをもって閉会とさせていただきたいと思えます。長時間にわたり、活発な御意見、御示唆をいただきましてありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。よろしく願いいたします。

○山下健康推進課長 最後に、事務局から2点連絡事項でございます。お車の駐車券が御入り用の場合には、事務局にお声かけいただきますようお願いいたします。

また、回収資料並びに机上配布資料につきましては、そのまま机上に残していただきますようお願い申し上げます。

連絡事項は以上でございます。

本日はお忙しい中での御出席、どうもありがとうございました。

○宮地部会長 お疲れ様でした。長い間、ありがとうございました。

(午後7時59分 閉会)